



みどりの丘

緑の『街』が見つめる医療



20年ぶりの片頭痛新薬は、 発作予防の注射薬(抗体製剤)

脳神経内科 科長
田口 丈士

片頭痛は職場の生産性を低下させる

若い女性に多くみられる片頭痛は、日本における有病率は 8.4%とされており比較的メジャーな疾患です。片頭痛の特徴としては、①ズキンズキンとした頭痛、②光や音に対する過敏性、③体動により悪化、④吐き気や嘔吐がある、⑤片側が多い(両側もある)が挙げられます。20~40 歳代の勤労世代に多くみられるため、片頭痛発作による早退や欠勤などにより、労働生産性の損失の大きな原因となります。決してサボタージュではございませんので、職場の温かい目も必要です。

これまでの片頭痛治療(急性期治療と予防治療)

片頭痛の治療は大まかに、急性期の治療と、予防治療の2つに分けられます。頭痛の急性期治療はカロナール(アセトアミノフェン)やロキソニンを服用する人が多いと思います。1980 年代には「痛くなったら、すぐセデス♪」というCMが登場するなど、鎮痛薬販売会社のプロモーションも盛んで、2009 年からは一般用医薬品(スイッチ OTC)が導入され、これまで医師の処方箋により入手していたロキソニンは、ロキソニンSとして薬局での購入が可能となりました。

日本では 2001 年に登場したイミグランを始めとしたトリプタン系薬は、セロトニン受容体部分刺激薬として、まさに特効薬ともいえる位置づけであり、今でも片頭痛治療の屋台骨を支える治療薬です。トリプタン系薬の注意点は、過剰な摂取による薬物乱用頭痛(1つ上の段階の頭痛)への移行や、血管収縮作用による狭心症や脳梗塞のリスクがあることなどです。

片頭痛の予防治療は、日常生活習慣の改善や、予防治療薬があります。この予防治療薬に、表題の如く新たな注射製剤が加わることになりました。

新しい片頭痛予防治療薬は、高額な抗体注射薬

2021 年、カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)をターゲットとした抗体医薬が登場しました。当院ではエムガルディ・アジヨビの2種類の製剤を導入しています。片頭痛発作でお悩みの方で、ご興味がおありでしたら脳神経内科外来もしくは脳神経外科外来を受診していただくようお願いいたします。